



# 穂肥までの栽培管理

寒い日が続き(12月は平年の1月並みの気温)、麦の生育が遅れています。  
特に、播種が遅れたものは1月下旬時点でも2~3葉程度で、麦踏みや土入れの時期に達してないほ場が多くありましたが、2月に入ってようやく作業可能な生育となっています。  
生育・圃場をよく観察し、3月までの管理を行いましょう。

## その1. 排水対策を確実に！

これまでの生育が良くないので、今後の生育の回復を図るためには「湿害対策」が重要です。各種作業をスムーズに行うためにも、停滞水があれば排水に努めてください。



停滞水を見つけたらすぐに排水対策！

## その2. 麦踏み・土入れは「茎立ち期」までに！

麦踏み・土入れは、「茎立期(茎が上方へ伸び始める時期:例年2月下旬~3月上旬)」まで。(それ以降は減収します)  
時期を逸さないよう、ほ場が乾いたら速やかに実施しましょう！

	麦 踏 み	土 入 れ
目 的 (効 果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>主茎の生育を抑え、分けつを促進</li> <li>生育を揃える</li> <li>倒伏の防止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>倒伏、凍霜害の防止</li> <li>排水対策</li> <li>過剰な分けつの防止</li> </ul>
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>土が湿った時は行わない</u> (土が締まりすぎ、麦を痛める。)</li> <li>※目安は「靴に土が付くかどうか？」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本は2回。<u>生育量が少ない時は軽めに</u></li> </ul>

## その3. 適期穂肥で収量・品質の向上！

穂肥の目的は、穂をつくる(①一穂の粒数を増加させ、②充実をよくする)ことです。  
適期は茎立期(例年2月下旬~3月上旬)。幼穂・幼穂を見て適期に施しましょう！

	品 種 名	施 肥 量
はだか麦	トヨノカゼ	NK化成30号の場合 →20kg/10a
小 麦	チクゴイズミ	(窒素3kg相当)
	ニシノカオリ(醤油用)	NK化成30号の場合 →30kg/10a
	ミナミノカオリ(パン用)	(窒素5kg相当)

### 穂肥の適期

幼穂長:2cm程度  
幼穂長:2~5mm程度



※ 醤油・パン用小麦は、高タンパク・収量確保のため、穂肥を多く施します。